書家が出張指導 心の中表現して

札幌平岸高

日本書道文化協会（東京）が全国の高校に書家を派遣する事業が8日、道内で初めて、札幌市豊平区の札幌平岸高で行われた。日展会友で創玄書道会（東京）の室井玄聳（げんしょう）会長が書道部の生徒の前で揮毫（きごう）した。

書道部1～3年の17人が参加し、書道パフォーマンスで迎えた。室井会長は「古典を書いて線を鍛え、心の中の感情を表現してほしい」と助言し、漢字作品など4点を披露した。続いて生徒と一緒に5畳分の大きさの合作を完成させた。

書道部長の植松歩楽（ほのか）さん（3年）は「改めて書の楽しさと素晴らしさを感じた」、副部長で安田結香さん（3年）は「一生忘れられない宝物」と感謝していた。（岩崎志帆）

札幌平岸高書道部の生徒との合作作品を書く室井玄聳会長（右）

©北海道新聞社